

令和元年度

福祉行政にかかわる指定管理者評価委員会 議事録

- 日時：令和元年 7 月 29 日（月）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分
- 場所：大和市保健福祉センター 1 階 検診室
- 参加
出席委員：4 名 小野委員、北林委員、桐原委員、中川委員
欠席委員：1 名 宮下委員
事務局：健康福祉総務課
所管課：高齢福祉課、障がい福祉課、こども総務課、すくすく子育て課
傍聴者：なし

【次第】

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 本日のスケジュールについて
4. 議題
各施設の事業報告及び指定管理者評価（案）について
（1）障害福祉センター松風園について
（2）障害者自立支援センターについて
（3）まごころ地域福祉センターについて
5. その他
6. 閉会

***** 以下、要旨記録 *****

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
小野委員長よりあいさつ。
3. 本日のスケジュールについて
事務局より本日のスケジュールを説明。
4. 議題
各施設の事業報告及び指定管理者評価（案）について

(1) 障害福祉センター松風園について

○資料1-1「障害福祉センター松風園事業報告書」、資料1-2「障害福祉センター松風園事業評価(案)」に基づき、指定管理者による事業報告及び所管課による評価案の説明の後、質疑応答、意見交換を行った。

※以下、指定管理者は指定と表記しています。

<質疑応答>

委員：平成30年度の第1松風園利用者数が前年度比210名減となっているのは、支援が必要な児童が減っていることが原因か。

指定：医療的ケアが必要な利用者2名が長期入院したことが減の主な理由である。

委員：第1松風園の事故報告で「再発防止に向け検討してきましたが十分な改善に至りませんでした。」とあるが、人手不足や職員のスキル不足が原因か。

指定：例年よりも個別対応を求められるケースが多く、対応に人員が割かれた結果、人手不足により、連絡帳の返却忘れや衣類の取り違えといった軽微な事故が繰り返し発生した。対応策として1名職員を増員し事故の抑止に努めた。

委員：交流保育を行い効果はあったのか。

指定：松風園の中だけで育つ子どもが、保育園や小学校といった地域で過ごした場合にどのような反応があるか、家族が知る貴重な機会であると捉えている。

委員：交流保育後に家族とのコミュニケーションはとっているか。

指定：書面で目的や感想を聞き、その後の方針を決める材料としている。

委員：事業報告に交流保育後の効果を記載した方がよい。

委員：決算収支について、事故報告では1名職員を増員したと聞いたが、第1松風園の収支決算内訳の人件費で、職員退職による減（補充できず）と記載されており、また第2松風園の収支決算の状況には、職員の補充が追い付かないと記載がある。職員数は不足していないか。

指定：第2松風園は市との協定にある人員配置体制を守り運営しているが、常勤職員が退職してもすぐに補充出来るわけではない。そのため、第1松風園、第2松風園とも常時若干名多く職員を確保しているが、余裕があるわけではない。第1松風園でも協定の体制は維持しているものの、個別対応が必要なケースや、長期休み、退職する職員がいた際に、職員を募集したが応募がなく、補充出来なかった。

委員：第1松風園の新たな会とはなにか。

指定：卒園した家族との交流を深める目的で月1回家族会を開催している。

委員：第2松風園の土曜日開園は何を行っているか。

指定：ボランティアによるフラダンスや歌のコンサート等を開催している。

委員：第2松風園は「対応が難しいケースでも意思決定支援を重視して利用者に寄り添う」とあるが、知的障がい者の場合、意思形成支援がより大事と考えているがど

うか。

指 定：長く利用されている方でも良好なコミュニケーションをとれないケースも多くありますが、意思形成支援しつつ、利用者本人の意思を汲み取ることも大事にしていきたい。

<評価案についての意見交換>

委 員：評価の視点1に職員を研修に派遣し資質向上に努めることでサービスの向上を図ったと追加した方が良い。また視点4の研修の具体的内容と効果を記載して欲しい。

所管課：委員の意見を評価に反映させたい。

委 員：視点4について安定した財務状況と分かるが、より判断しやすいように法人全体の財務状況も今後追加して欲しい。

所管課：指定管理者に資料の提出を求めるよう検討していく。

(2) 障害者自立支援センターについて

○資料 2-1「障害者自立支援センター事業評価(案)」、資料 2-2「障害者自立支援センター事業報告書」及び当日用意したパワーポイントに基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答>

委 員：就労移行支援事業について、就労後もサポートするとのことだが、就労期間はどのぐらいか。また利用者の年齢内訳はあるか。

指 定：おおまかな数字でお答えすると、2年以上就労している方が8割、5年以上が7割である。また利用者の年齢内訳については資料が無く回答できない。

委 員：事業の方向性は良くなっていると思うが利用者が少ないことについて考えを聞きたい。

指 定：就労移行支援事業所については株式会社も含め多くの事業所が参入をしてくれており、選択肢の広がりが一因だと考えている。また大和市の指定管理として事業を行っていることから、就労に向けて困難を多く抱えた方を支援していくことが使命であり、利用初期には週に半日、2日という利用者のペースに沿って支援していることから、利用者の実人数が少ないことも一部の要因と捉えている。しかし利用者増に向けた工夫は必要と考えており、長期的な視点で周知すべく特別支援学校向けに体験会を開催する等の営業活動を行っている。

委 員：利用者は自立支援センターに何を期待しているか。

指 定：就労移行支援や職場定着の就労相談の希望が多いと捉えている。

委 員：相談事業について、発達障がいの可能性が高い方が増えているのではないか。

指 定：長期間ひきこもりをされている家族の方から相談を受けるが、当人は障がいという認識はなく、障害者自立支援センターの職員が相談に行っても反発が多く苦慮している。介護事業者や地域包括支援センターの方々と勉強会や相談会を開き、

支援や介入の手法を模索している。

委員：そのような方々の療育手帳の取得はあるか。

指定：年代にもよるが、40代50代の方は、昔の情報を集めることが難しいため、精神障害者保健福祉手帳や自立支援医療受給者証の取得が多い。

委員：2期赤字となっているが、支出面で人件費以外の事務費等で具体的な削減策はあるか。

指定：微々たるものではあるが、日々の節電等、無駄を省いていくよう心掛けている。また人件費が8割を占めているが、指定管理者としての事業運営において必要な人員を確保しているため支出面の大きな削減は難しく、収入増を見込み就労移行支援事業等に注力していく。またこの事業を長期間運営している中で、金銭では得難いノウハウを法人全体で得ていると捉えており、大幅な人員削減は考えていない。

<評価案についての意見交換>

委員：評価の視点1について、老障世帯という言葉は一般的に伝わらないため修正した方が良い。

所管課：委員の意見を評価に反映させたい。

委員：評価の視点4について、収支が赤字のため無駄を省いて支出削減に努めていただきたい。また拠点区分間繰入金2千万円とあるが、社会福祉法人すずらんの会の他部署にも有益な事業を展開しているという観点から、法人全体の中で繰入金が適正という判断なのであれば、今後は法人全体の財務状況も示していただきたい。

所管課：指定管理者に資料の提出を求めるよう検討していく。

(3) まごころ地域福祉センターについて

○資料 3-1「まごころ地域福祉センター事業報告書」、資料 3-2「まごころ地域福祉センター事業評価(案)」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答>

委員：委員会に先立って施設を見学した。高齢者世話付住宅について、生活の細かいところまで見守り支援が行き届いている印象を受け、その点評価したい。

また、老人デイサービスや子育て支援センターの利用者の増加に努められていると思うが、自宅から施設への送迎だけでなく、例えば駅の近くなどで利用できる送迎サービスを設けて利便性を向上させるなどの考えはあるか。

指定：デイサービスについては、介護保険上、自宅から施設への送迎が義務づけられている。介護保険でない「元気はつらつ講座」については、現在、自宅から通える人しか受け入れていないので、委員のご意見について検討したい。

委員：財務状況がまとめられている資料の中の【支出の部】人件費支出の金額が、数字等が細かく記載されている資料の中の人件費支出と法人運営事業拠点繰入金支出の合計となっているが、繰り入れた分が人件費として使われているという解釈で

よいか。また、昨年と比べ事務費と事業費の金額のバランスが大きく変わっているが、科目の処理等変更されたか。

指 定：人件費についてはご指摘のとおりである。常勤職員については退職積立金の中から繰入支出しているものを全て人件費に計上している。資金収支内訳表ではわかりにくい部分があるので、皆様にわかりやすくするため人件費としてまとめさせていただいた。事務費と事業費については、今期の指定管理事業を受けるにあたり整理をした。事業を運営していく上では、事務費、事業費どちらか一方に整理をしないと法人として区別しづらい部分があるため、主に事業費に計上することとした。これにより事務の簡略化につながった。

委 員：子育て支援センターについて、他の子育て支援施設との差別化は図られているか。

指 定：他の施設と比べて専門職を多く配置しているため、より専門的な子育て相談を受けることができる。そのため、他の子育て施設や職員と連携し、より困難な方を子育て支援センターに紹介いただくよう働きかけを行っている。また、利便性には欠けるが、施設は広くつくられており1日ゆっくりと過ごしていただける施設となっている。

委 員：1階は高齢者、2階は子育て世帯に対応した施設であるが、センター全体として職員同士の連携は図られているか。

指 定：法人として、職員会議や研修会が開催される際は、関係のある職種は参加するようにしているほか、ダブルケアやヤングケアラーのような複合的な課題を抱えた世帯については、職員同士が情報共有、連携をとっている。

委 員：事業所自己評価において、「人材育成・就業環境整備」の項目が他の項目と比べて低いスコアとなっているが、どういった理由からか。

指 定：デイサービス事業では臨時職員を非常に多く雇用している状況にある。民間では、職員確保のため、臨時職員に資格取得費用の補填を行うなどし、臨時職員から常勤職員に処遇を改善することもあるようだが、そのような方策を現状とれていないことなどが挙げられる。

委 員：「子育て支援センター 集い・講座アンケート結果」を資料とされているが、公表する資料であれば、グラフの見せ方（選択肢順で表記）を工夫したほうがよい。

指 定：検討する。

<評価案についての意見交換>

委 員：評価の視点2に「コグニサイズ」という言葉が出てくるが、一般の方には馴染みがないので注釈をいれたほうがよい。

委 員：桜ヶ丘中央病院リハビリテーション科との連携は評価の視点1に記載したほうがよい。

所管課：委員の意見を評価に反映させたい。

5. その他

事務局より評価の公表について説明。

6. 閉 会

以上